

交流事業あれこれ



☆渥美奨学生の集い



1999年11月2日午後6時より、恒例の「渥美奨学生の集い」が鹿島新館/渥美財団ホールで開催されました。今年は、東京大学名誉教授で当財団評議員の秋山先生に日本の美についてのご講演をお願いいたしました。12世紀の日本の四大絵巻（源氏物語絵巻、信貴山縁起絵巻、伴大納言絵詞、鳥獣人物戯画）と13世紀の代表作2例（平治物語絵巻、一遍聖絵）を、X線や超拡大写真を含む素晴らしいスライドを使って、詳しく紹介していただきました。専門が違うので、普段は美術館など行く機会の少ない

参加者も、八百年前の日本の画家の素晴らしい技を鑑賞し、見えないものまで見ることができるようになる科学の力に感動しました。その後の親睦会では、本年度奨学生で東京藝術大学の王旦さんが、朝から準備して中華料理とイスラム風バーベキューを作ってください、参加者一同秋の夜の宴をすっかり楽しみました。



☆軽井沢旅行

恒例の軽井沢旅行は、1999年7月23日から25日まで、2泊3日で行なわれました。シンポジウムの夕立の翌日に梅雨明けした今年は、お天気に恵まれ、参加者一同、高原の涼風と木々の緑を心から満喫しました。初日は、例年のように、離山ハイキングやすいかわりと花火を楽しみました。



2日目のバーベキューは、1999年度奨学生王旦さんが料理長をしてくださってイスラム風シシカバブ、中国チーム合作の餃子、洪徳俊家の台湾からすみとビーフン、そして、ゲストの原嘉男鹿島美術財団事務局長ご夫妻のおでんなどなど、食べきれないほどの御馳走でした。

3日目のお昼にも横川の峠の釜飯に加えて、ブラジルチームが虹鱒料理を作ってください、体重を気にしながらの帰京となりました。このような恒例の行事に加え、今年は新たに軽井沢セミナーを行ないました。海外から4名のラクーン会会員が家族と一緒に参加してくだだったので、先輩方の近況を話していただきました。また、2日目の夕方には、石川六郎鹿島建設名誉会長のお話を伺いました。

普段から会う機会が少なく、仲良くなる時間も足りない所ですが、軽井沢での昼夜3日間、ディスカッション、先輩のお話、バーベキュー、その上家族ぐるみでの付き合いを通じて、国籍を問わず、参加者は皆、お互いの距離がグンと近くなったように感じました。また、ラクーン会と言う一つの会に対しても、絆を強めることができました。





☆ラクーン会

in ソウル



1999年4月14日(水)午後7時より、ソウル市のヒルトンホテルで、ソウル・ラクーン会が開催されました。当日は、ヒルトンホテルにお勤めの金顯泰氏のご好意により、「渥美国際交流奨学財団様」と書かれた大きな垂れ幕と、ワインとグラス(狸の大好きな?)をかたどった氷彫刻で飾られた特別室に、ソウル市内や近郊に在住の7人の元奨学生の皆さんが集まり、アジア婦人友好会で韓国

訪問中の渥美伊都子理事長と、東京から掛けつけた今西淳子常務理事を交えて、それぞれの近況を報告し合いました。ソウルは、桜と、市の花の連翹が満開で、東京からの訪問者はホテルの窓から南山公園の花見を楽しむことができました。

in ボストン

1999年8月3日(火) トロントの喬辛さん(Waterloo 大学ポスドク研究員:96 Raccoon)と家族、ニューヘブンの張紹敏さん(Yale 大学ポスドク研究員:97 Raccoon)と訪米中の今西常務理事は、孫艶萍さん(Havard 大学ポスドク研究員:98 Raccoon)と一緒に、ボストンの一日を楽しみました。猛暑もおさまり快適なお天気に恵まれ、ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学を見学した後、チャイナタウンでロブスターを食べました。今西常務理事は、前後にトロントとニューヘブンを訪問し、ラクーン会員が海外でもがんばっている様子を見て嬉しく思いました。



in ニューヨーク



2000年3月26日(日) ニューヨーク訪問中の渥美伊都子理事長と今西淳子常務理事を囲んで、ラクーン会が開催されました。ニューヨーク大学助教授のメラニー・トレーデさん(96 Raccoon)が幹事を引きうけてくださり、マンハッタンの55丁目にある中華料理レストランに、ラクーン会メンバー5名と家族が集まりました。コロンビア大学のミッシェル・バンブリングさん(95 Raccoon)、エール大学の張紹敏さん(97

Raccoon)、ハーバード大学の孫艶萍さん(98 Raccoon)、エール大学に来たばかりの侯延昆さん(99 Raccoon)が、忙しい研究の合間をぬって駆けつけてくださいました。5つの違う国の人達が集まって、懐かしい軽井沢や渥美財団の話日本語で語り合い、ビッグ・アップルの賑やかな一夜はあっという間に過ぎてしまいました。



in ジャパン・忘年会

12月6日、ラクーン会忘年会が、池袋の台湾料理店「大龍門」で開催されました。参加者は、1995年度ラクーンの高玲娜、高偉俊、金熙、F. マキト、施建明、葉会、1998年度ラクーンのE. アディオレ、何祖源、胡潔、羅仁淑、呉弘敏、許曉原、財団より嶋津、今西でした。台湾ラクーンは残念ながら出席できませんでしたが、参加者はおいしい台湾料理だけでなく、いつものように活発な会話を楽しみました。テーブルの奥の方では、餃子を食べながら、この会に飛び入りだった中国国立大学から来た高偉俊さんの友人が、揚子江のダムの有用性を、この計画に懐疑的な中国ラクーンを相手に主張していました。他のグループでは、中華鍋を食べながら、アディオレさんを中心に、宗教について、哲学的な、しかしながら友好的なディスカッションをしていました。財団の新しい事務局長、嶋津さんも仲間に入ってください、参加者のひとりひとり話して下さったので、皆嬉しく思いました。この会の設定と会計を担当して下さった幹事の、胡さんと許さんもお苦労さまでした。

しかしながら、宴はそこでは終わりませんでした。2次会はそばのカラオケでした。参加者は、高玲娜さんと羅さんのプロ級の演歌に圧倒されてしまいました。勿論、金熙さんをはじめとして、ほとんどの男性ラクーンは、この時には既に、酒精の力に圧倒されていたわけですが・・・

☆2000 新年会

2000年1月8日(土)恒例の渥美財団新年会が、鹿島新館/渥美財団ホールで開催され、新旧奨学生とその愛する人達、約70名が集まりました。この日は例年にないほど良いお天気で、西洋暦の新しい千年紀の初日を無事に迎えると同時に、東洋暦の龍の年の始まりを皆で祝うことができました。まず、中曽根文部大臣から渥美家にいただいた皇室ご下賜のお酒で、乾杯をしました。いつものように、参加者はそれぞれ、ビンゴで新しい年の幸運を占いました。また、若い人たち(みみちゃん、ちーちゃん、りょう君)やかつて若かった人たち(王旦さん夫妻とお友達の滝沢さん)のバイオリンとピアノの演奏は、素晴らしい年の兆しでした。子供達は参加者をイノセント・ワールドに引き入れてくれました・・・子供達のかわいらしい演奏は「結局は『小さな世界』なのだ」ということを思い出させてくれました。新年会は、新しいものと古いものの絆を強める機会となりました。



☆研究報告会

2000年3月4日(土) 渥美財団1999年度研究報告会が開かれ、本年度の奨学金受給者11名が自分の研究成果を発表しました。

今期・来期の渥美奨学生やラクーン会(同窓会)のメンバー、財団役員に加え、日本で留学生支援をしていらっしゃる方々にもご参加いただき、本年度最後の行事も盛会のうちに終わらせることができました。発表者は、自分の博士研究を「子供にもわかるように」「15分以内で」説明するのに大変苦勞したようでしたが、



パワーポイント・スライド・OHPなどの機器を駆使して、それぞれ素晴らしい発表をしてくださいました。

最後に、渥美財団理事で癌研究会の片岡様より「15分間では言いたい事の10分の1しか言えなかったと思うが、研究者としては、一般社会に研究の結果が役立つかどうか、自分の仕事の世界とどのように繋がるかを考えることが大事なのだ。また、これからの世界は、専門家が尊重された20世紀と違い、外の人とコミュニケーションをとりながら研究をすることが大事であり、その意味でも渥美財団ネットワークを大切にしていってほしい」と、また、当財団監事の石井様から「目的意識がしっかりしていること、新しい分野の研究を進めていること、集中力のすごさ、根性を感じた。今後もラクーン会を通じて、皆さんの消息を聞くのを楽しみにしている」とコメントをいただきました。また、鹿島学術振興財団の中島様からは「私の髪が黒かったころ、この建物を設計したが、鹿島守之助氏が各国大統領や要人を招いたこの場所で、このような会をしたことを、皆さんの心にとめて欲しい」とお話しいただき、次のような俳句をご披露いただきました。

ひなかざり アジアの学徒の 夢ひらく

報告会の後、ラクーン会より渥美財団インターネット・サーバー(aisf.or.jp)の説明と、「関口グローバル研究会(SGRA)」の紹介がありました。



◆報告者と博士論文テーマ

Maria R. M. Coimbra	「DNAマーカーによるヒラメの品質改良」
洪 京珍	「バイオサーファクタントを用いる重金属汚染土壌の修復技術に関する研究」
候 延琨	「生理活性を指向する複素環化合物の高選択的電解フッ素化」
具 延	「高収率化学パルプの無塩素漂白に関する研究」
李 鋼哲	「移行経済の特質と北東アジアの地域開発戦略～市場経済化の進展と政府の役割～」
Prachya Musikasinthorn	「タイワンドジョウ科魚類の系統分類学」
Vu Thi Minh Chi	「近代ベトナムにおける社会変動と教育の形成過程～日本との比較の視座～」
王 旦	「中央アジア及び東ヨーロッパにおけるマーカムの影響を受けたヴァイオリン音楽」
楊 接期	「インターネット上で実行可能な科学技術日本語論文支援システムの開発と評価」
葉文昌	「準単結晶シリコン薄膜太陽電池の基礎研究」
周海燕	「難知性炎症疾患の発症と治療に関して」

